

## 関西新空港反対！泉州現地集会への招請状

ロシアによるウクライナ侵攻から2年が経過し、また、昨秋のイスラエルによるガザ侵攻からも6ヶ月も経ちますが、イスラエルは、ガザへのジェノサイドを止めようとしません。世界各地での抗議の声が広まる中でも、イスラエルも、ロシアも軍事侵略をやめようとしません。ガザやウクライナの多くの市民が犠牲となり、この戦闘を命令し、悲惨な状況を作り出している者たちは、仲介にたって、話し合いをすすめる声にも耳を貸そうとしないのが現状です。

昨春、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となり、マスク着用も個人の主体的な判断を尊重することになりました。関西空港での、日本人の旅行需要の回復とインバウンド増による旅行者増加により、3023年12月には単月では過去最高を記録し、インバウンドは、年間2500万人を突破し、2019年の8割程度まで回復したと報道されています。しかしながら、コロナパンデミックでの航空産業の苦境の3年間、あるいは、2018年、台風21号による陸の孤島となった関西新空港の窮状を例に出すまでもなく、この順調な回復基調が続くという保証もありません。

また、経済安保による、国家統制の枠組が強化される中では、人や物の移動の自由に関しても一定の規制が生じかねないリスクも負うこととなります。2019年当時大きな問題となったオーバーツーリズムの問題もこのコロナ禍の中で克服されたわけではありません。関西新空港の現状も砂上の楼閣に過ぎません。この関西新空港の活性化の一助としての2025年大阪・関西万博が取り上げられますが、万博をめぐるパビリオン建設の遅れ、「2億円トイレ」再入札不成立、野島の「中継地」夢洲の湿地の保全など問題点が日々報道されている現状です。祝賀による成長路線を強引に進めてきた負の側面の一端が表面化したにすぎません。いのちを救い、いのちに力を与え、いのちをつなぐために、何が今問われているのかを真摯に考え、行動するためには、万博というオブラートに包まれたいのちを奪い、生きる活力さえ奪う、いのちの連携さえ断ち切ってしまうカジノも止めていかねばなりません。わたしたちは、いのち輝かない未



来社会と決別するためにも、巨大開発の継続を許さず、この春、関西新空港反対の集会を行っていききたいと思っています。空港は日米地位協定により、いつでも軍事空港と化してしまいます。岸田政権は、安保3文書をはじめとして、次々とあらたな戦争国家体制づくりを進めています。馬毛島では、米空母艦載機部隊の離発着訓練(FCLP)の場所とし、自衛隊初めての陸海空一体の総合軍事基地もつくろうとしており、米軍との軍事一体化に留まらず、韓国も含めた日米韓の軍事一体化も進んでいます。宮古島では、電子部隊の配備も進められようとしており、奄美大島などへの軍事施設の拡大、石垣島での自衛隊基地の拡大、与那国島へのミサイル配備など、南西諸島の軍事要塞化が更に進んでいます。また、この関西の地でも祝園の弾薬庫拡大や重要土地規制法での監視地域として熊取の原子燃料工業や和泉市の信太山駐屯地、八尾駐屯地、八尾空港などが指定されました。戦時体制のための国家的統制は、既にわたしたちの足下にも迫ってきているのです。日本列島全体がアメリカの盾となり、矛ともなる動きは決して認められません。日本の国の軍事化が進められる中、空港の軍事化も必然です。

2024年春、わたしたちは、空港反対の声をあげ、闘っていきます。空港政策を根本から変えていくという反空港運動の全国的な連帯と共同の闘いの中でも、闘いを進めていかねばならないと考えます。私たちが泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会は、反空港の闘いの一環として、この春も、泉州現地集会を行い、更なる空港反対と反戦平和の声をあげていききたいと考えます。

全国の闘う仲間と地域の住民のみなさんの結集をお願いしたいと思います。

**日時** 2024年4月21日 (日曜) 13時15分  
**場所** 泉南市岡田浦浜 (岡田浦漁協となり)

泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会

T59010503

大阪府泉南市新家184

